

保育に関する模擬研究成果報告書

1. 概要

本研究は、保育現場における子どもの社会性の発達に関する調査を目的とした。特に、遊びや集団活動を通じた子ども同士の相互作用が、協調性や自己表現力にどのような影響を与えるかを検討した。

2. 研究方法

対象は A 市内の保育園に通う 4 歳児 30 名とし、観察記録および簡易アンケートを実施した。活動内容は自由遊び、集団遊び、制作活動の 3 種類とし、それぞれの場面での子どもの行動を記録した。

3. 結果

以下の表に、各活動における協調的行動と自己表現的行動の割合を示す。

活動内容	協調的行動 (%)	自己表現的行動 (%)
------	-----------	-------------

自由遊び	65	40
集団遊び	80	55
制作活動	70	60

4. 考察

結果から、集団遊びにおいて協調的行動が最も多く見られ、自己表現も比較的高い割合で観察された。これにより、集団での活動が子どもの社会性発達に有効である可能性が示唆された。自由遊びにおいても一定の効果は見られるが、集団での関わりを促すことが重要であると考えられる。

5. 結論

保育における集団活動は、子どもの協調性や自己表現力を育む上で効果的であることが示唆された。今後は年齢や活動の種類を広げた調査を行い、より詳細な検討を進める必要がある。

参考文献

- 厚生労働省『幼児期の教育・保育に関する調査研究報告』(2020)
- 日本保育学会『保育学研究』第 58 卷 第 2 号 (2019)